



松柏中学校アーカイブ通信 第21号 2024年10月15日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克  
(タイトルの背景は旧校舎)

## 今週末、松柏中の牛鬼が校区を練り歩きます！

コロナ禍で2020(令和2)年度から休止していた松柏中の牛鬼が、今週末に復活します。2年間は紙垂(しで)配りのみで何とか地域とのつながりを保っていました。そして2年前から、総合的な学習の時間「伝統文化コース」の1体とPTAの1体とが中学校周辺に限定して練り歩いていましたが、今年度は5体で校区を練り歩きます。完全復活です。

ただし、生徒数の減少で、川之内の大上地区、上郷や梨尾、さらには高野地地区等、多くの地区で在校生がいない状態です。他の分区分区生徒を割り振って練り歩きます。そのため、土地勘がなく、また5年のブランクで、生徒も牛鬼自体をよく知らない状態です。ごちないかもしれませんが、生徒は一生懸命取り組みますので、よろしくをお願いします。



【1997年 松柏中牛鬼の開始】

## 八幡浜市中心部の牛鬼の歴史

そこで今回は、旧八幡浜市中心部の牛鬼の歴史についてお伝えします。牛鬼については、春祭りとお祭りのそれぞれで見られ、地域の神社に由来するものから、地域ごとに「大人牛鬼」や「子ども牛鬼」を練り出しているものもあります。その上、「中断」がそのまま「終了」だったり、再度「復活」するなど、正確な把握は難しいのですが、地域の方への聞き取り調査等を通して、流れをまとめてみました。写真は全て地域の方からいただいたものです。



### ① 地域の青年団が中心に

右上の写真は八幡浜の牛鬼が写っている写真で最も古い時期のもので、(バックに牛鬼がいます)「御大典紀年事業 八幡浜青年団第六区」と入っているのが、昭和天皇の即位記念の1928(昭和3)年です。この時点での八幡浜町(1935年に市制施行)は、矢野崎村(今の向灘から大平、津羽井、高野地)や千丈村、神山町を除いた狭い範囲です。それで六区と付いているのですから、小さな地域ごとにそれぞれが牛鬼を出していたと考えられます。



### ② 戦後は大いに牛鬼が暴れた

各地区ごとに子ども牛鬼などが登場したのが戦後です。運営の主体は地元有志であったり、青年団だったりしますが、その区別は付きにくい。向灘だけでも、中浦や大内浦等それぞれで牛鬼が登場し、小学生や中学生が参加していました。松柏地区でも八高裏の白王神社などでの牛鬼が確認できます。(春祭りでは高野地で今も登場しています。)

一方、市街地中心部の牛鬼は、担ぎ手も多く、比較的大きな体格のものが登場します。代表的なものが「矢野町1丁目」と「矢野町3丁目」、そして「愛宕青年団」(写真左・1962年)の3体です。「愛宕」と付いていますが、幸町、近江屋町、白浜通りの3地区によるものです。

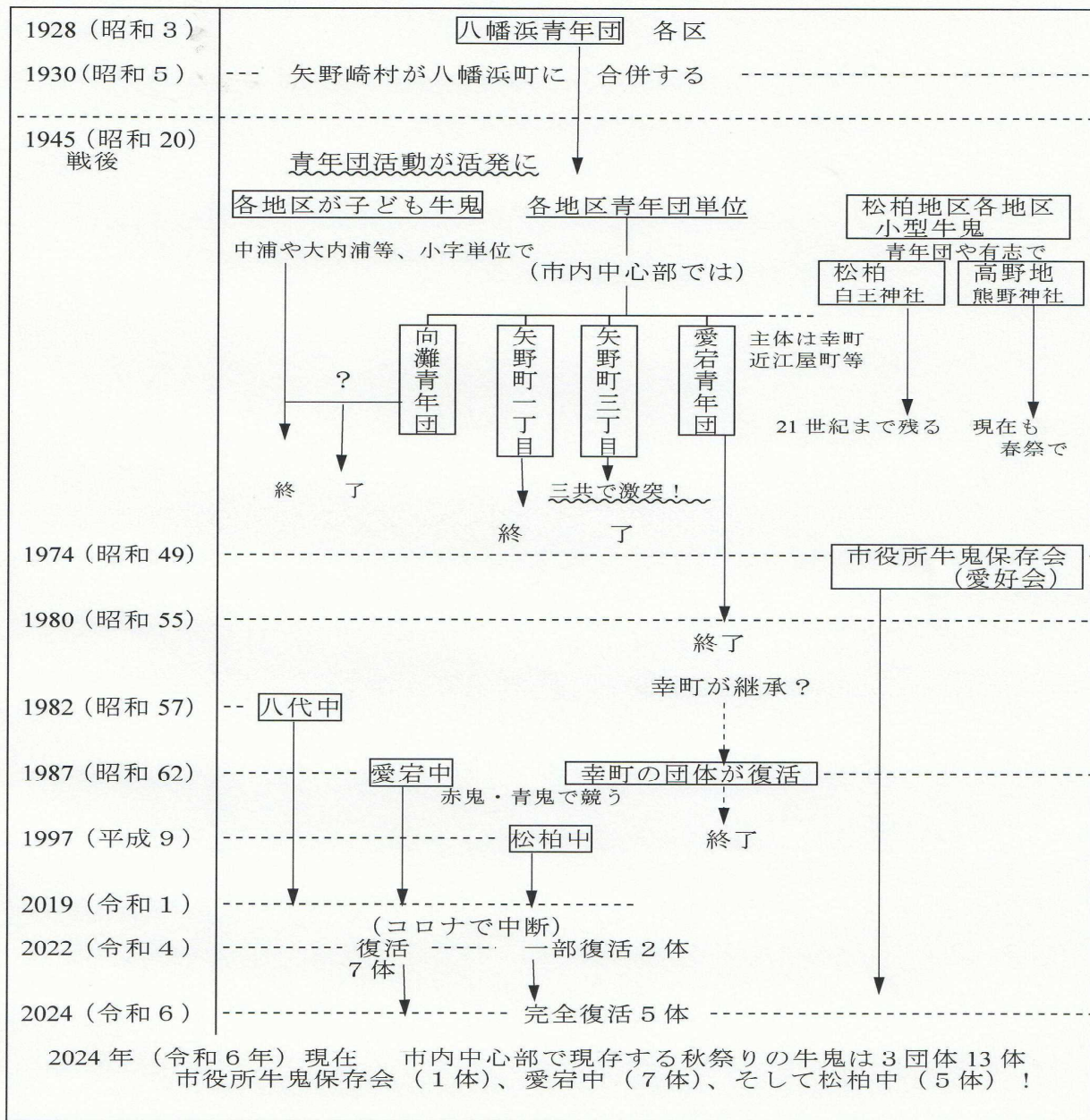
この3体は、新町商店街と銀座商店街が交わる場所＝「三共(さんきょう)」でぶつかります。鉢合わせです。大きな体で頑丈ですから、胴体に人が乗ります。そして尾っぽを叩いて、興奮させるのです。合図で角を合わせます。八幡浜の秋祭りには仮装行列(2002年で終了)もありましたが、やはり主役は牛鬼でした。 \*注:「さんきょう」が通じるのは60代以上でしょうか。

### ③ 青年団活動の衰退

1970年代に入ると、市中心部の青年団活動が衰退し、1980年をもって愛宕青年団の牛鬼も終了してしまいます。地域の伝統文化が寂れていくことに危機感を感じた有志は、菊池政志朗・市役所総務課長(当時)がリーダーとなって、「牛鬼保存会」を1974年に立ち上げます。1970年代後半、市中心部で残っていた牛鬼は、愛宕と保存会の2体のみ、1981年は1体のみが残るまでになったのです。

#### ④ 中学校牛鬼の登場

1981年は保存会の1体のみという状況にまでなっていた市中心部の牛鬼でしたが、1982年に八代中学校の牛鬼が登場します。前年に校舎（今の4階建ての校舎）が完成し、それを記念する形で、新町商店街で行われる「こどもみこしパレード」に参加したのがスタートでした。手探り状態のスタートで、担ぎ手も3年生のみでした。その後、数を増やし、全学年が担いで校区を練り歩く形に拡大します。そして5年後の1987年に愛宕中、1997年に松柏中の牛鬼が始まりました。消えかかった地域の文化が、3つの中学校によって復活し、地域に元気を与えてきたのです。



#### ⑤ 松柏中の牛鬼

1997年に始まった松柏中の牛鬼は、「パレード」ではなく、「巡行」という言葉に最初からこだわりました。当日は地区の放送で牛鬼の練りを予告し、高野地地区や川之内地区まで練り歩いていきました。地域の方々は中学生の牛鬼の到着を待っていました。天高く「どんがら」を舞い上げ、頭を玄関に突っ込むと、手を合わせて何度もお礼の言葉を述べられる。肩に重みがかかり、足は棒のようになっているが、すがすがしい気持ちになる。78年間のお礼を込めて、最後の牛鬼を元気よく担ぎたいですね。

【参考資料…たくさんありますが】

- 大本敬久氏の著作や講演会資料、南海日日新聞の連載記事(1999～2000年) など多数
- 2001年八代中「八中だより」第22号、23号 ○ 地方紙3紙の秋祭りの記事
- 1998年度以降の愛宕中、双岩中、八代中での総合的な学習の時間で行った牛鬼調査の資料など